

## 上野英三郎教授とハチ公のエピソード

私は上野教授がハチ公を迎え入れた際のエピソードと、ハチ公の出自について調べました。

上野教授は大の犬好きで、ハチ公を迎え入れるとき、すでに八歳のポインター一犬、ジョンと、七歳の S を飼っていました。ジョンは当時子犬だったハチ公の面倒をよくみていたそうです。また、実は上野教授は、ハチ公を含めて五匹の秋田犬を飼っていました。しかし、ハチ公以外の四匹はいずれも一、二歳で亡くなってしまったそうです。ハチ公は十一歳まで生き、当時としてはかなり長生きしましたが、上野教授自身が、ハチ公を引き取った二年後に亡くなってしまったので、ハチ公が上野教授と過ごせたのはわずか二年間だけでした。その後の七年間、ハチ公は上野教授を「待ち続ける」こととなります。

ハチ公は、秋田県大館市大子内の家で生まれました。ハチ公が有名になると、大館市では多くの人が自分こそ親元である、と名乗り出ました。現在のように血統書が発行されておらず、またハチ公の出自を探る手がかりが、秋田犬の子を送ってくれるよう世間瀬千代松氏に依頼した、という葉書しかない、という当時の状況で、人々はハチ公の「顔」で出自を判断しようとしてきました。報道されたハチ公の写真から、扇田の明石文治氏が所有しており、闘犬にも使われていた一文字号の血筋であろうと推定されました。その後戸籍の血統図から、一文字の血筋でハチ公に該当する犬を探り、一文字号の子、「二代一文字」号こそがハチ公の父犬であろうと目されたそうです。ハチ公の生まれ故郷、秋田県大館市大子内の生家の前には、二〇〇三年十月十二日、ハチ公生誕八十周年を記念して石碑が建立され、全国に五つあるハチ公像の一つとなっています。